

各地区情勢報告（2018年7月26日）

地区報告者	報告概要
東京地区（山岸常任理事）	<p>（鉄筋）新規物件は少ない。3、4月と比べれば5～7月は若干良かったのではないかと。スプレッドは下がっている。（平鋼）建築関連が5月頃から徐々に良くなってきた。今後も建築需要に引っ張られていくのではないかと。（構造用丸鋼）自動車、建産機は好調でフル生産が続いている。市中在庫は減少傾向。ユーザーのひも付きは堅調。実感として悪くはないが、良くもない。（一般形鋼）店売りの二三次店の在庫補充の引合いは低位安定。建築物件、倉庫関連に使用するアングルが動き始めた。溝形鋼は土木関連の引合いが増えている。（H形鋼）6月販売はリーマンショック以降では、かなりの高水準であった。店売りの出荷も増え、加工も好調。建築着工も堅調。メーカー生産もリーマンショック前を上回る水準で増加している。（軽量C形）6月に5千円メーカーが値上げ。現状3千円転嫁に尽力している。工期遅れで、価格上昇に歯止めがかかっている。（コラム）かなり逼迫しており、価格はない物高である。BCP、外法H形鋼の影響を受けて大径サイズのH形鋼、コラムが逼迫している。（薄板概況）5月末薄板三品在庫431万9千トン。前月比+16万7千トン。タイト感が全くない。過剰気味になっている。（薄板・店売り）6月出荷は前年同月比1割以上減。入荷はトラブルもあるが順調で、在庫は増えている。足元需要が足りない。高炉メーカーは値上げ一本調子。価格転嫁は7割位。在庫を減らしたい。（厚板概況）現状の荷動きは斑模様。建機は好調。建築関係も動き出している。土木は低位安定。価格転嫁はある程度進んだが、これ以上の価格転嫁は難しい。品種によっては値下げ要請も出ている。需要旺盛だが、我々の仕事に繋がらないものが多い。（中板コイル）トラックは某メーカーで増産傾向になっている。建機メーカーも好調を維持している。店売り販売が悪い分、ひも付き販売でカバーしている。（厚板定尺）6月半ば過ぎから引合いが出、量のまとまった物件も出てきた。メーカーのデリバリー遅れで過剰感もなくなっている。厚板はメーカーが多いため安値に引っ張られる。需給がかなり引き締まらなると価格転嫁しづらい。（縞板）6月は前年同月比、前月比とも増加。現状、ユーザーは当用買いに終始しているが6月にスポット物件が入ったおかげで増加に結びついた。オリンピック競技場や有明、晴海の選手村など案件も出ている。（鋼管・高炉品）。建築、自動車は堅調。土木も出荷遅れもあるが堅調。一般産機の輸出は好調。店売り販売も昨年より若干プラス。価格転嫁は7～8割程度で採算悪化の企業も見受けられる。大径品、中径品、メッキ品、圧力配管がタイトだが、需要見合いというよりメーカー要因でタイト感が出ているようである。（鋼管・溶協品）6月の店売りは前月比横ばいで低調だったが7月に入り引合いが増えている。自動車は好調、パレット関係は増加傾向。建築は相変わらず好調だが、加工所が忙しく予定通り計画が進むか分からない。</p>

<p>大阪地区(森下常任理事)</p>	<p>(棒鋼) 異形棒鋼は現状よくないが、8月以降、徐々に良くなっていくのではないかと。(形鋼) H形鋼の6月在庫販売は前月比、前年同月比で増加。建築需要の堅調さが現れている。一次加工も増えている。一般形鋼の販売は7月に入り増加してきている。(薄板) 自動車好調、家電はエアコン好調、鋼製家具は一服感がある。建機は内需減少、輸出が好調。秋には相場が変わってくるのではないかと。(厚板) 造船は2016年度底を打ち、2017年度より回復基調。建築、建機、建材などは堅調。(鋼管) 店売り販売は前年より増加している。建築は大型物件好調で中小物件も出てきているが、価格転嫁は実行中である。</p>
<p>愛知地区(早川常任理事)</p>	<p>(条鋼) 鉄骨は2月をボトムに3月以降右肩上がりに良くなっている。各特約店に温度差がある。今後、物流倉庫などの新規物件もあり期待値が大きい。数量が出ていなく価格転嫁ができていないのが現状。コラムは納期がかかり手配に苦労している。(鋼板) 季節要因で第一四半期(4~6月)自動車生産が落ち込んだが、建産機、工作機械が堅調、建築向け好調で、グローバル車種の先送りもあり全体的な落込みは抑えられている。今後、自動車生産が戻るのと海外向け車種の販売が開始されるため在庫の余剰感はなくなると思われる。(厚板) 産機やトラックは好調。中国の貿易摩擦の影響が出ている。建築も好調。加工が増えている。</p> <p>(鋼管) 第1四半期、自動車国内生産減が響いているが、建産機、工作機械が好調で季節要因を感じさせない状況。中径角は入荷、納期とも悪くなっている。コラム同様に市中にタイト感がある。</p>
<p>新潟地区(澁井常任理事)</p>	<p>新潟地区でアンケートを行ったところ赤字企業はゼロ、収支トントン以上であった。大幅に黒字になったという企業もない。現状、悪くもなく特別いいという状況でもない。建築土木等の地元物件はあまりないが首都圏の仕事が流れてきてそれなりに忙しい。加工設備(コラムの切断開先、厚板溶断、H形鋼の加工など)を持っているところは忙しい。BCP、BCR、外法H形鋼、高炉H形鋼、コラムなど一部の品種でタイト感が出ている。ここへきて厚板も納期がかかっている注視していきたい。</p>
<p>北九州地区(宮崎幹事)</p>	<p>九州全体として1~6月の販売は昨年並であった。相場はメーカーの値上げペースについていけず、思う様に価格転嫁できていない。利益は減少傾向。一次加工は忙しく、専門業者もオーバーフローしている。7月に入り需要は好調。自動車、ゼネコン、ファブ、建産機の仕事は多く人手不足が顕著である。ユーザーも思う様に仕事が捗っていない。店売り主体の企業では建築関係の仕事に携わる機会が多く、仕事自体は多いが、人手不足の問題でユーザーの仕事が前に進まない。空中戦になっており、流通への材料発注は減少ぎみで、目先、足元とも暇である。相場は横ばいで安値も散見され、利益確保に苦労している。</p>